



令和4年度 2月人権一口講座



「にわかファンの私が感じた事」

昨年、カタールで開催されたサッカーのワールドカップにおいて、我が日本代表は、グループリーグでコスタリカに敗れたはしたものの、強豪国「ドイツ」と無敵艦隊と称される「スペイン」を逆転で撃破し、2勝1敗の首位で決勝トーナメントに駒を進めた。

ちなみに日本が入ったグループの「国別世界ランキング」は、スペイン七位、ドイツ十一位、日本二十四位、コスタリカ三十一位である。

日本チームの目標は「ベスト8」で、相手となるスペインとドイツはワールドカップ優勝の実績を持つ常勝軍団。同じグループのコスタリカはランキングでは格下であったものの、いったい誰がこの劇的なシナリオを予想できたであろうか？

決勝トーナメントに進んだ日本チームは、前回大会準優勝のクロアチアと互角に戦い、先制点を奪うも後半に追いつかれ、延長戦でも決着せず、ペナルティキック戦の末に惜しくも敗れた。

目標とするベスト8には届かなかったが、日本のサッカーが充分に世界で通用し、「日本サッカー協会」が掲げる「2050年までにワールドカップで優勝する」という目標に確実に近づいている事を、日本中の誰もが確信したことだろう。

にわかファンである私から見ても、日本が強豪国相手に先制点を許しても決して諦めることなく、後半から次々に攻撃的な選手を送り出し、勝利を信じて戦っていることは一目瞭然であった。

「この際だから、私も、長友選手の言葉を借りて叫びたい！……「ブフボー！」と。

私たちは、口頭から知らず知らずのうちに「自分の技量はこれくらいだから〇〇するのは無理」とか、「あの人の性格は〇〇だから」という「思い込み」や「決めつけ」で人に接している一面はないだろうか？

そしてそれが、自分を苦しめたり、相手を傷つけてしまっている事はないだろうか？

最初から、自分や相手の事を決めつけて行動してしまつと、それ以上の良い関係は決して望めないだろう。

この期間中、私は寝不足と戦いながら、日本代表のように相手をリスペクト(尊重)しつつ、自分の実力以上の力を発揮できる大人にならなければいけないなど、テレビ映像を見て思いを深めたワールドカップであった。



(熊本市ふれあい文化センター広報紙「かけはし」令和四年度二月号より)

短いメッセージ 好きなことも できることも 全然ちがう
だからこそ 一緒にいて楽しいんだ

熊本市・熊本市教育委員会・熊本市人権啓発市民協議会のカレンダー 白川中学校3年 大庭 美和さんの作品より